

# 5月どりネギ栽培ではトンネルの 部分換気で抽苔を抑制できる

5月どりネギ栽培では抽苔の発生による収量・品質の低下が問題となっています。そこで、晩抽性品種を利用し、定植から2月下旬までビニルトンネルを閉めきって生育させ、気温が高くなる2月下旬からトンネル内の最高気温を25℃目安に部分的に換気します。トンネルの裾を開けたままにする慣行栽培（全体開放）と比べてトンネル開閉の手間を要しますが、夜間の保温効果もあって抽苔発生を著しく少なくすることができます。

## 晩抽性品種の特性

晩抽性品種「春扇」及び「羽緑一本太」は、夜温が花芽分化する低温（7℃以下）になっても、日中の温度を25℃まで上げることによって、抽苔発生率が少なくなる特性があります。

表1 昼温の違いが抽苔発生に及ぼす影響

品 種	抽苔発生率 (%)	
	15℃	25℃
春扇	25	0
羽緑一太	17	0
夏扇3号	92	75
ホワイトタイガー	100	83

播種90日後から夜温7℃、60日間処理  
処理終了90日後に抽苔発生率を調査  
明期と暗期はそれぞれ10、14時間



全体開放

部分換気

図1 トンネルの換気法

## トンネルの部分換気を行うと 日中と夜間の温度が高まります

定植から2月下旬までビニルトンネルを閉め切って生育させ、2月下旬からトンネル内の気温25℃を目安にトンネルの片側を5mおきに、高さ20cm程度に開閉する部分開閉（写真：右）を行うことで、トンネルの裾を開放したままにする全体開放（写真：左）よりも夜温が低下せず、日中の温度も高まります。

## 晩抽性品種と部分換気で 抽苔の発生を抑制できます

晩抽性品種を用いても、慣行栽培（全体開放）では抽苔発生率が約11%になりますが、部分換気を行うことで、約3%に抑制することができます。

また、生育も促進され、軟白部分が長くなって収量・品質が向上します。

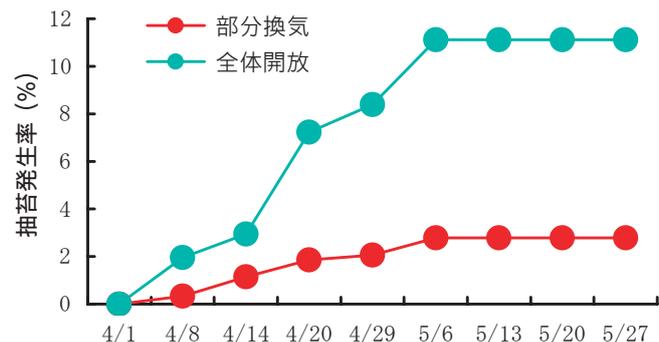


図2 抽苔発生率の推移

※品種「春扇」 播種10/7 トンネル換気2/24～4/7